

平成27年度

久米島町教育委員会の事務に関する  
点検・評価報告書

平成28年9月

久米島町教育委員会

## ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

\*平成28年8月1日現在

職 名	氏 名	任 期
委員長	山元朝弥	27年7月10日から31年7月9日
職務代理者	儀間剛	28年7月10日から32年7月9日
委員	中島美幸	27年10月1日から29年7月9日
委員	糸数真由美	26年7月10日から30年7月9日
委員（教育長）	吉野剛	26年7月10日から30年7月9日

学識経験者名簿 (五十音順)

\*平成28年8月1日現在

役 職	氏 名
元養護教諭 (委員長)	宮平 厚子
元高校教諭	赤嶺 實
久米島PTA連合会会長	比嘉 淳

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホーム・ページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

## 2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成27年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

### (2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

#### ・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

### (3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を委員に任命し、ご意見をいただきました。

### (4) 評価基準日

平成28年3月31日

### (5) 評価実施日

平成28年8月22日

## 平成27年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「平成27年度久米島町教育主要施策」を定めました。

### 教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

### 目標達成のための主要施策

#### 学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」をはぐくむ学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、全校体制による「わかる授業」の構築に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
学力調査	1, 全国学力学習状況調査 * 小6年生・中3年生 2, 沖縄県到達度調査 * 小3～6年、中1～2年 3, 標準学力検査 * 小4～6年生、中全学年	○全国学力学習状況調査(6年)は、全国平均を大きく上回った。 ○県到達度調査(3年～6年)は、4学年中3学年が前年度を上回った。	A	A
		●全国学力学習状況調査は全国平均との差が昨年度より広がった。また、県到達度調査(1年～2年)は、中1は県平均を上回ったが、中2は、5科目全てで県平均を下回った。授業改善の継続と共に補習指導の確実な実施を行っていく。	C	C
検定支援	1, 漢字検定 * 小学校2年以上に漢字検定 2, 英語検定 * 中学校生全員対象	○漢字検定 H27 合格率 76.5 % (前年比+13.2) ○英語検定 H27 合格率 31.6 % (前年比-12.8) 3級以上合格者 22名 (前年比+1名) 在籍学年以上の合格を目指す取組の充実	B	B
地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全小中学校で地域人材を活用した取組を計画的に行うことができた。 * 200時間以上(211時間)国語、音楽、体育、総合等	A	A
久米島町学力向上実践発表会	学校・家庭・地域が連携し、学力向上を目指して各学校が取り組んだ実践を発表する。 * 球美中ブロック、西中ブロック	○西中、球美中それぞれの中学校区ブロックで、学力向上実践発表会が開催できた。また、小学校、中学校の校種の違う教師が授業研究会に参加し、お互いに学び合うことが出来た。	A	A

## 道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性をはぐくむことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的なかかわりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
道徳・人権教育	道徳の時間の指導の充実 * 指導案を作成しての研究授業の実施	○全校で指導案を作成しての研究授業が実施され、また全教諭が1回以上は授業公開できた。  ●研究授業や授業研究会が実施できず、指導助言が十分出来ていない。	B	B
	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等に関する調査を実施	○全小中学校で、いじめ等に関するアンケート調査を定期に実施できているので、結果については学校全体で共通理解できている。 ○発生したいじめのほとんどが、年度内で解消が図られている。 ●場に応じた適切な言葉遣いができていない。指導が必要である。	B	B

## たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
体力向上・健康 保持増進	体力・運動能力、運動習慣等 調査の実施	○ H27 結果より中学校で全国を上回った種目は 18 種 目中 10 種目（前年比+1）あった ○ H27 結果より小学校では全国を上回った種目は 16 種目中 11 種目（前年比+5）であった。	A	A
	幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システ ムを活用し、健康管理に努める。	○福祉課、公立病院、女子栄養大学、各学校との連 携が取れ、体制づくりが構築できつつある。 ●町全体に小・中学校における肥満傾向及び予備軍 の子ども達がいる。保護者の意識も弱い。	B	B
	健康教育講演会等の開催	○学校三師の先生が、授業や学校保健委員会で短い 講話ができた。 ●専門家による講演会は、開催できなかった。	B	B
交通安全指導	新学期に幼・小 1 年を対象に 安全協会・警察と連携した交通 安全指導を実施している。	○那覇署、町交通安全協会の職員を講師として、全 幼稚園・小学校において、信号機の見方・横断歩 道の渡り方等について、実際に信号や横断歩道 を使った訓練を行うことができた。 ●各学校で登校時に校門にて、交通安全指導・挨拶 運動をボランティアで展開しているが、人材が少 ない。	A	A



なつやすみ水泳教室	夏季休業期間中に、泳力の向上を図ることを目的に、B & G プールを活用し、希望者のみ午前、午後各3回開催する。	○多くの児童が水に慣れながら練習し、3日目には、泳力が伸びた。 ●高学年クラスは希望者が0だった。低学年クラスの内容を広げるなど、開催要項の見直しが必要。	B	B
-----------	--	--	---	---

## キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
ジョブシャドウイング学習・職場体験学習	町内各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。	○6小学校の6年生及び2中学校の2年生が、町内の40あまりの受け入れ事業所に配置され、職場の見学・体験を行うことができた。 ○久米島にも、様々な職種の仕事があることがわかった。	A	A

## 食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
		○小学生 480 名・中学生 266 名・教職員 132 名に安心		

給食センター運営	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>安全な給食を提供できた。</p> <p>○各学校からの要請により、栄養教諭による食育講話、給食指導の実施や保護者対象の給食試食会を開催できた。</p> <p>●老朽化している施設の早急な立て替えなど、学校給食提供の環境整備が必要である。</p>	B	B
----------	------------------------------------	---	---	---

## 特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助成)	<p>○延べ630名を各種大会に派遣させることで、生徒に大会への意欲を持たせることと、心身の育成ができた。申請のあったものは全て補助できた。</p> <p>●宿泊日数が増えると、補助率が低くなることから、宿泊費を補助するなど補助内容の検討が必要。</p>	A	A

## 平和教育の充実

生命の尊重と個人の尊厳を基本とし、思いやりの心や寛容の心を育む為にも、県や久米島町の歴史や地域の特性を考慮し、児童生徒の発達の段階に応じた平和教育を教育計画に位置づけ、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
平和教育	<p>恒久平和を願う平和学習、平和活動の実施。</p> <p>* 6月23日の慰霊の日において、町主催の慰霊祭に各学校代表が参加している。</p>	<p>○全小中学校で、平和に関する学習や集会等の取り組みを実践できた。</p> <p>○町内6小学校、2中学校から児童会・生徒会が参加し、千羽鶴の奉納を行った。また同日に平和学習会を実施することで、戦争や平和の尊さについて考える機会を設けることが出来た。</p>	A	A

## 国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図って参ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
国際理解教育	<p>1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。</p>	<p>○どの学校においても、ALTが英語指導助手として積極的に担任とのTT授業を行っている。</p> <p>○児童生徒も、意欲的に学習に参加出来ている。</p> <p>○中学への円滑な接続ができるように春休み英語教室を6年生対象に開催した。</p> <p>●教科担任との授業内容に関するミーティングの時間確保が難しい。</p>	A	A
	<p>小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語</p>	<p>○小学校の日本人英語指導助手として、町内6小学校の全学年で、週1回の英語学習指導を、担任と</p>		

指導助手)が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	連携し実施できた。 ○ほとんどの児童が意欲的に学習できている。 ○中学への円滑な接続ができるように春休み英語教室を6年生対象に開催した。 ●各学級担任との授業内容に関するミーティングの時間調整が難しい。	A	A
国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。	○派遣した生徒にとって貴重な体験・経験となり、参加した生徒の視野の広がりや成長が帰国後の報告会等でみられた。 ●選考方法について、点数配分の見直しが必要である。	A	A

## 特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものであります。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性等や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
教育支援委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い教育支援を行うための調査・審議を行う。	○45名の児童生徒の申請があったが、全員心理学検査や支援判定のための審議を行うことが出来た。 ●教育指導委員会に申請される児童生徒数が年々増加しており、心理学判定員、検査員等の人材が足りない。	B	B

特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて特別支援教育支援員を配置している。	○特別支援教育支援員を小学校 13 名、中学校 2 名を配置できた。(前年比+3名) ○特別支援教育支援員連絡会を開催することで支援員の資質向上を図ることができた。 ●学校によっては、通常学級における支援が必要な児童生徒が増え、特別支援教育支援員の配置が十分とは言えない。	B	B
特別支援教育アドバイザー等の派遣	特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に関する助言、支援学級担任・特別支援教育コーディネーターへの助言等を行う特別支援教育アドバイザーの派遣。	○特別支援教育に関して経験豊富な、町内の小学校に勤務する教諭が、各学校の要請等に応え教諭や保護者に、適切な助言を与えることができた。 ●特別支援教育アドバイザーが島内にいないので、必要な時に助言が出来ないことが多い。必要に応じて県から派遣する巡回アドバイザーを各学校から要請し効果的に活用したい。	B	B

## 情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。また、情報化社会に対応できる情報活用能力を育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
小・中学校情報教育	高度情報通信社会に対応できる為の小中学校の情報機器の整備。	○小学校においては、教科書改訂に合わせてITを活用した授業（デジタル教科書、大型テレビ、PC等）や情報教育が効果的に実践できている。特にデジタル教科書の活用を全学校とも工夫して実施している。	A	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT 研修を小学校教諭を対象に 3 回行い、指導力の向上を図ることができた。</li> <li>●各学校のパソコン室の端末機が旧式で故障も多いので、今後計画的に新しい機器への更新が必要。</li> </ul>	
--	--	--

## 環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など接続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホテル館との共催で4月下旬にホテル観察会を開催した。多くの親子（約100名）の参加があり、ここ数年では見られなかった多数のホテルの乱舞を観察する事が出来、環境保全の大切さを学ぶ事が出来た。</li> <li>●自然観察のため、天候等条件により十分な学習機会を提供出来ない場合もある。</li> </ul>	A	A
環境教育	水生生物の種類・水質の学習を行うリバーウォッチングの開催。（水生生物調査）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校6年生が白瀬川で、水生生物の種類や水質の調査や水質の検査を行う学習を計画しているが、各学校の年間授業計画で、限られた時間数の中で実施するため、学校間の日程調整が厳しい。効果的な参加方法について検討したい。</li> </ul>	B	B

## 生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを中学校を中心として派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○今年度より、県派遣スクールカウンセラーを全小学校へも計画的に配置できた。限られた派遣日数ではあるが、各学校でも積極的に活用できている。 ●カウンセラーの訪問回数が少ない（町派遣→各小中学校は週1・2回、県派遣→中学校は週1回、小学校6校が月1回）ことで、学校によっては十分な支援ができていない。	B	B
毎月の問題行動状況の把握	町内の全小中学校における不登校・暴力行為等の調査を、各学校及び学年ごとに毎月実施集計し、報告する。	○不登校の件数は昨年度に比べて大幅に減少した。 ●関係機関と連携した対応及び支援が必要である。	A	A
関係機関との連携	問題の内容に関係する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。	○問題のある児童生徒を関係機関へつなぐことができた。 ●関係機関につないでいるが、継続的な支援・対応が充分に出来ていない	B	B

## 幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣，態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものであります。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している。	<p>○希望する全ての園児を預かることが出来ている。</p> <p>●免許を保持する預かり指導員の確保が難しい。病気等で休んだ場合の補充職員がいないことから、教育委員会の職員で対応している。</p> <p>●免許保持者を嘱託職員として採用することができないか、調整していきたい。</p>	B	B
	幼稚園教諭の休暇・出張等の際に補充教諭として派遣している。また、園外保育などへも派遣し安全面等への配慮も実施している。	<p>●2学期以降においては、幼稚園補充教諭が欠員となり、教諭が出張等で園を留守にする場合や急な休みが生じた時に、複数園による合同保育で対応した。</p> <p>●複数園で教諭が急な休暇等の場合があった場合対応ができなくなる</p>	B	B
	幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている。	<p>○清水幼稚園、美崎幼稚園、久米島幼稚園にヘルパーを配置し、それぞれの園において、園児のニーズにあった支援ができた。</p> <p>●学期途中で、情緒面で支援を要する幼児が新たに出現した園があり、対応が難しかった。</p>	A	A



## 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮するとともに生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

主要小目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
児童・生徒交流	<p>&lt;小学校・なかさと交流&gt; 2月に新潟県十日町市に5年生14名を派遣、7月には本町において受け入れ交流を図る。</p>	<p>○交流生は、事前指導から、本番、報告会と、全ての児童が挨拶・発表を原稿なしで堂々で行うことができた。十日町市の関係者からお褒めの言葉を頂いた。表現力が確実に身に付いていると感じる。 ●学校割り当てと参加希望の児童数に差異が見られるが、学校間の調整で対応する等の工夫をする。</p>	A	A
	<p>&lt;中学校・佐賀市交流&gt; 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。</p>	<p>○今年度は、男子6名、女子10名と昨年度に比べて男子の参加者が増え、バランス良く交流を深めることが出来、また交流生同士の親睦をより深めることができた。 ●訪問先についての事前学習が必要である。</p>	B	B
夏休みものづくり体験教室	<p>夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。</p>	<p>○地域の方々が講師となり、普段なかなか触れる機会のない「ものづくり」と人的交流が出来た。 (*6教室で、延べ人数406名の参加者) ●受講枠を超える希望者のある教室も見られる。教室数を増やせるか検討したい。</p>	A	A
	子ども達が各教室等で学習し	○多くの町内の幼児児童生徒(約260名)が参加し、		

ヤングフェスティバル	<p>てきた成果を披露する発表会。 *唄・三線、舞踊、ピアノ、空手、伝統芸能等</p>	<p>幅広いジャンルで日頃の練習の成果を発表できた。家族や関係者の参加も多く、大きな声援を送っている。 ●出演団体が多く、開催時間が長時間となってしまう。</p>	A	A
久米島町子ども読書まつり	<p>本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。</p>	<p>○沖縄県子どもの本研究会や地元サークル団体による読み聞かせや絵本の解説、展示販売を行っており、多くの親子が訪れ楽しく選び購入している姿が見られた。</p>	A	A
久米島現代版組踊り	<p>地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。</p> <p>*一括交付金を活用 ・久米島公演 平成28年2月6日開催 観客：約800名</p>	<p>○12月のタイムスホールにおける公演、2月の改善センターでの定期公演、そして3月の那覇市民会館での久米高創立70周年記念事業公演を実施し、島の中高校生（44名）が、多くの観客の前で堂々と熱演し、すべての公演で大好評を得た。子どもたちに表現力が身に付いてきた。</p> <p>●センター試験等大学受験に影響があり、実施時期や参加対象の見直しが必要である。</p>	A	A

## 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連

機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
星空観察会	天文学や宇宙について興味や知識を深めるために、専門家を講師として招いて観察会を実施している。	○夏休みの8月中旬、シンリ浜公園地において、多くの親子（約100名）が参加して開催できた。 ●参加者は多いが、講師が1名ということで充分に対応できない部分もある。	A	A
久米島町新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○島内小中学生の応募が458点、高校生・一般から約25点の応募があった。児童生徒はもちろん、一般の方も作品を通しての交流や書道の向上を図られている。 ●一般の部の応募数が少ない状況が続いているため応募が増えるように要項の見直しを検討したい。	A	A
移動図書館ホタル号	幼児・児童、又、町民が誰でも何処に住んでいても、本に親しみ・図書が利用できることを目的に、週3回、町内を巡回し図書の貸し出し等を行っている。	○学校の図書室とは違った読書環境として、町内の児童の放課後の楽しみであり、また放課後の居場所となっている。 ●車両本体（ホタル号）が老朽化し、新たな車両の確保を必要とする。	B	B
放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを目的として開催している。	○子ども達の安心・安全な居場所としての環境作りが出来ている。（6小学校で18教室を実施） ●各小学校単位で開催しているが、ボランティア等で教室をサポートしてくれる人材が地域に不足し十分な教室開催ができていない地域もある。	B	B

## スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を実践できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	部評価
町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 毎年体育の日前後の日曜日に開催しているが、今年度は、<u>悪天候のために中止</u>となる。</li> <li>● 10月は、各種大会や行事が多く開催されるため、予備日が確保できない。</li> </ul>	/	/
学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町民が夜間、4校の施設を活用してのスポーツを通して、コミュニケーションづくりや健康増進を図っている。</li> <li>● 2施設については利用団体が少ない地域がある。</li> </ul>	A	A
各種競技会支援	小体連・中体連行事等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒は、意欲的に参加し競技できた。また、保護者の応援も多い。</li> <li>● 運営に当たり、役員や競技審判、準備員等の役員確保が厳しい状況である。</li> </ul>	B	B
久米島町パークゴルフ協会	協会事務局として生涯スポーツとしてのパークゴルフの普及・振興を通して会員相互の交流と親睦を図り、心身共に健康で明るく楽しい地域社会づくりに寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回目の総会を開催することが出来た。</li> <li>○ 会員向けに協会主催の親睦大会を開催し、成績上位者を他町村の大会へ派遣し交流を深めることが出来た。</li> <li>● 所管の見直し等について、関係課と調整が必要。 * H28より、業務を環境保全課へ移管予定。</li> </ul>	B	B

## 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうとする学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図って参ります。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○6月から12月まで毎週1回、具志川教室・仲里教室の2ヶ所で開催できた。講座終了時には、ほとんどの受講生が4～5曲弾けるようになった。 ●長期間（約半年間）の講座であるが、後半からは受講者の参加が激減した。	B	B
手話教室	手話の学習を通して、聴覚障がいについての知識を深め、幅広い年代でコミュニケーションを図りながら、交流の輪を広げることを目的に開催している。	○6月から12月まで、毎週火曜日に、全18回実施できた。 ○初心者向けとランクアップした基礎編の2コマの内容で実施できた。	A	A
移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。	○具志川改善センターにて、4月と8月に2回開催できた。両方とも開催期間を2日間とし、また読み聞かせ等も行ったことで、回を重ねるごとに利用者、貸出冊数（約1200冊）が増えている。 ●提供冊数をさらに増やせないか調整したい。	A	A

## 文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	●平成 25 年度～ 27 年までの 3 年事業であるが、予想以上に細かな資料が必要となったことから、平成 27 年度は約 70% の達成であった。1～2 年の延長が予想される。	B	B
具志川城跡保存修理・整備	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため調査を実施し、城跡を修復する。	○平成 27 年度～ 35 年までの事業予定で、本年度の事業である石積み復旧、南側壁斜面補強対策事業を完了した。 今後は、階段等を含めた復旧工事を予定している。	A	A
町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○平成 26 年度より引き続き原稿執筆者依頼及び執筆者と文書等及び現地調査を行っている。 ○町史編集嘱託職員を採用することができた。 ○平成 28 年度の原稿執筆者依頼について、80% 承諾を得ている。	A	A
文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	○指定史跡や文化財の草刈り及び修復作業を行うことが出来た。 ●草の伸びに草刈り作業が追いつかない場合がある。	B	B

## 教育委員会の活動状況について

### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。平成27年度は14回(臨時会2回を含む)開催しました。

### (2) 教育委員会会議以外の活動状況

#### ○ 研修会 (3回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (27年5月)

沖縄県市町村教育委員研修会 ・ 那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (27年10月)

市町村教育委員会教育委員委員・教育長研修会 (28年2月)

#### ○その他活動状況 (各種行事等への出席)

年度	月	行 事 名
27	4	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
	4	新任教職員歓迎会
	5	久米島PTA連合会総会
	7	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会 (7月～10月)
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	中体連陸上競技大会
	9	久米島PTA連合会研修
	10	小学校音楽発表会
	10	久米島小体連陸上競技大会

	1 0	久米島地区小学校童話・お話大会
	1 0	久米島地区中学校意見発表大会
	1 1	町学力向上実践発表会（球美中ブロック）
	1 1	中学校合唱コンクール
	1 2	比屋定小学校120周年記念式典
	1 2	各幼・小・中学校 学芸会・学習発表会
	1 2	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
2 8	1	町新年会
	1	町成人式
	1	町ヤングフェスティバル
	1	町学力向上実践発表会（久米島西中ブロック）
	1	久米島町新春書道展
	2	なかさと交流
	2	中体連角力大会
	2	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	2	小学校音楽発表会
	3	小・中・高校卒業式



## 《外部評価委員の主な意見》

### 学習指導の工夫・改善・充実

学力調査は小学校は良い結果であるが中学校については正答率が低いといった傾向である。要因の一つとして小学校は全教諭が一体となって取り組めるが、中学校では教科制であるため、全職員が一斉に取り組めないことがあげられる。小学校の段階で児童生徒が自主性を持って学習する力を身に着ける取り組みが必要と思われる。

地域教育資源活用支援については、町内全学校において地域の人材や環境を活用されており、地域を知り、良さを理解するととても大切な取組である。

### たくましい心と体をはぐくむ教育の推進

幼児児童生徒健康診断は、他の自治体に先駆けた素晴らし取り組みで、関係者の努力により久米島の子供たちの貴重なデータが得られている。今後はこのデータを活かした効果的な取組を行えるよう各機関との連携が必要である。また栄養指導について保護者の理解と認識が重要だが、内容が難しく広く保護者に理解を得られていないと思う。保護者を対象とした教え方への工夫が大切だと感じる。多くの保護者が集う久米島地区PTA連合会研修会などで、一般の保護者でもわかりやすく、指導助言の上手い講師を招き講演会を行うなどの取り組みが必要である。

夏休み水泳教室は現在一か所のみで実施している。小学校のプールを活用し会場を増やす、または送迎バスを行うなどして遠い地域からでも参加しやすい環境を整えれば利用者も増えるのではないか。また中学校でも水泳を取り入れ、小学校、中学校と継続して行くと子供たちの目標意識も高まり、より一層効果が期待できるのではないかと検討してほしい。

### キャリア教育の充実

当初沖縄県が主導し、現在は久米島町の産業振興課主管のもと約40事業所において実施しているが、久米島に様々な仕事、職場があり、その良さを知ることが重要なので、各事業所の理解と協力を得て対象となる事業所をさらに増やしてほしい。

### 特別活動の充実

部活動等で島外での大会等へ参加する際、その経費を負担しており、申請されたすべての派遣を補助できたことは保護者として大変ありがたい。子供たちにとってより多くの大会へ参加できるチャンスが生まれ、モチベーションも高まる。今後も効果的に運用できるよう実態に沿った取組を行ってほしい。

### 特別支援教育の充実

特別な支援を要するこども達が増加傾向だが、グレーゾーンの子供たちへの対応が重要である。個性なのか発達障害なのかを子供の発達の早い時期に見極め、適切な判定を行うシステムを、教育委員会だけでなく福祉課や関連する機関と協力して構築してほしい。また保護者の側にも正しい知識と認識が必要であり、特に久米島は情報や機会が乏しい。関心のない親もいるなか、保護者が広く学べる場を整備するなど地域社会全体で支援し育てることが大切である。

### 情報教育の充実

全小学校において、交付金によりデジタル教科書、タブレットPC等が整備され、授業への意欲や学習内容の理解が深まり、学力向上にもつながっていると考える。また中学校でも同様な取り組みがなされるように、教育委員会で研修等の支援を行ってほしい。

### 生徒指導の充実

毎月の問題行動の把握について、不登校の件数が昨年度に比べて大幅に減少している。学校と関係機関との連携協力が重要であるが、今回は大きな効果をもたらした。

### 青少年の健全育成

中学生の佐賀市との交流事業においては、昨年と違って、男生徒の参加者が増え、バランス良く交流を深めることができたと思う、次年度は男女同数になるようによりバランスがとれた募集・推薦ができるようになって欲しい。また、効果的な交流になるよう訪問先の事前学習を確実に行ってほしい。

### 総括

昨年と比べ項目の構成について検討がなされ、見やすく評価しやすい表示であった。教育委員会に置いて様々な事業を展開しているがその頑張りが正しいかどうかを検証し、見直しが必要であればフィードバックを行うことで、より効果を高めてほしい。

これほど多くの事務・事業を行っていると気づけなかった、大変参考になった。